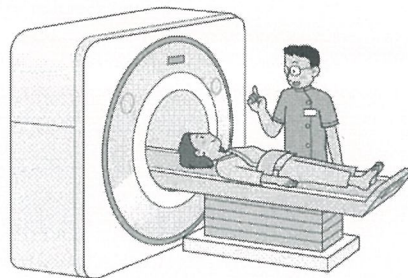


CT検査を受けられる方へ

～検査の正当性と放射線被ばくについて～

検査の正当性について

CT検査ではX線を使用するため、放射線被ばくに不安を感じる方も多いと思います。CT検査は検査による放射線被ばくによるリスクよりも、検査を受けることによる利益が上回る場合に行われます。定期的に同じ検査を行う場合がありますが、病気の有無や異変、治療効果の判定など、最善の医療を提供するための利益があると判断されています。



放射線が身体に及ぼす影響

放射線の影響には、確定的影響と確率的影響があります。

確定的影響：ある一定量の放射線を浴びると、稀に皮膚が赤くなる等の影響が起こることがあります。これを確定的影響といいますが、その放射線量より少ない場合では影響は生じません。通常のCT検査ではこの放射線量を超えることはありません。一番放射線量の多い場合でも、この確定的影響が発生する5%以下の放射線量で検査を行っています。

確率的影響：100ミリシーベルトという放射線量の被ばくで将来の発がんリスクが0.5%上昇する可能性があると言われていますが、これよりも少ない線量での発がんリスクは非常に小さく、被ばく線量と発がんの関係は明らかにされていません。通常のCT検査では多くても1回のスキャンで10ミリシーベルト、検査全体で30ミリシーベルトを超えることはありません。

検査の最適化について

CT検査の被ばく線量は検査の内容や患者様の体格（体格が大きいほどX線は通りにくいので放射線量は増やさなければならない）によって変わりますので、他の病院のCT検査や患者さん同士での被ばく線量の違いを単純に比較することはできません。当院では検査内容や患者さんの体格に合わせて、正しく診断できる画質を担保した放射線量で検査を行っています。むやみに放射線量を減らして、診断できないような質の悪い画像になってしまえば検査自体が無意味になり、それこそ「無駄な被ばく」となってしまいます。これを踏まえて、適切な検査を行うために指標となる放射線量が国内で示されており、当院ではその値を超えないように努力をしています。



兵庫医科大学

ささやま医療センター